

茶道総合資料館

[茶道&芸術]

茶道とは、茶道家の千利休（1522-1591）が精神と美両方の修行として完成させた「茶の道」です。1つの芸術形式としての価値が認められ、同時に来客のもてなしの一環でもあります。

茶道総合資料館は裏千家が運営しています。裏千家は、千利休の直系の子孫が創始した茶道の3流派のうちの1つです。美術館でありつつ、文化体験の場ともなっており、来館者は茶道についての説明を聞きながら伝統的な茶道を簡素化したものを体験できます。茶道総合資料館の入館料は1,000円（大学生は600円、中高生は350円）で、茶道体験には別売りのチケットが必要です。

1階と2階の展示室では特別展が開催されます。2階の展示スペースには、近くの裏千家の本部にある茶室の実寸大のレプリカもあります。茶室の横には、本部のジオラマが展示されています。また2階には、60,000冊を超える書籍を収めた図書室もあり、その中には伝統的な茶道に関する英語の書籍も含まれます。図書室は全ての来館者に無料で開放されています。